

# 慈雲

33号

2014/11

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る  
百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



即便捨劍  
止不害母  
勅語内官  
閑置深宮  
不令復出

## 【『観経』の言葉】

すなわち劍を捨てて、止とどまりて母を害せず。内官ちやくんに勅語じんぐし、深宮へいちに閑置して、また出いださしめず。

前回では、二大臣から真劍な諫めを受けた阿闍世王は心から悔いて母に危害を加えることを思い止まりました。

しかし、怒りの残りがあって、母である韋提希夫人を深宮に閉じ込めました。再び父王の許へ食べ物を運ぶことを恐れたのです。

本当の懺悔は人間の力では出来ないことを知らされます。前回で「懺悔して救けんことを求む」と言いながら但し母は幽閉する、という理知・理性が残っている。いわば条件付の懺悔、それが人間の本性であり私たちの姿です。

しかし、仏様の目当てはそのような人間なのです。

今回は

如来所以興出世

唯説弥陀本願海

五濁惡時群生海

応信如来如実言

如来、世に興出したもうゆえは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり。

五濁惡時の群生海、如来如実の言を信ずべし。

と読みます。

意味は「お釈迦様がこの世にお出ましになられたのは、ただ阿弥陀仏の本願（の海）を説かれるためである。五つの濁りの悪い時代に生まれた群生（の海）のよいうな私たちは、まさにそのお釈迦さまのまことのお言葉を信ずべきである。」

お参りに行ってご門徒の皆さまとお話をしていますとよく「お釈迦様と阿弥陀様はどう違うのか」というお尋ねがあります。お釈迦様は紀元前463年にイン

ド（現在のネパール）でお生まれになった歴史上の人物であり、仏教の開祖です。「ゴータマ・シツダールタ」「仏陀」といわれたりもします。それに対して阿弥陀仏は、経典の中に出てくる仏様であり、あらゆる衆生を救うために本願をたて西方の極楽浄土に私たちを迎えようと誓われた仏様です。

「五濁」とは、劫濁、見濁、煩惱濁、衆生濁、命濁です。今は詳しく申せませんが、今の世の中はこの五つの濁りがある悪い時期である、といわれるのです。

ここで注意したいのは、阿弥陀仏の本願を海に譬えていることです。弥陀の本願はどこまでも広く深いということを海に譬えていることは領けます。しかし次の句には、五濁の悪時悪世界に群れをなして生きている私たちをもまた親鸞聖人は海に譬えておられるのです。これはどういうことでしょうか。

仏教にはこのように海や川、山や雲、日月といつた自然界を比喻にすることがよくあります。この寺報も慈悲を「どこまでも広がる雲」に譬えて『慈雲』としています。親鸞聖人は特に海を比喻に多く使われています。智慧海、功德海または愚痴海、生死海などです。

以前、私がよく教えていただいた先生の法語の中にどうしてもストンと腹に落ちないものがひとつありました。

「こんな私なんか」という思いが出たときの私を姿勢のたかい人間 仏にそむく者といえます

というものです。

海のように深く広いということは、たんに阿弥陀の本願が深く広いということではなく、私たちの煩惱・業が海のように深く広いということなのです。

深く広い、いいかえたら底無し涯無しの業苦に苦しむ私たち衆生をどこまでも見捨てることなく、とことんつきあう本願は阿弥陀の本願しかありません。

「こんな私なんか」という時には、どこまでも見捨てないという本願を疑い、その本願に目当てされている「自分」をも信じないから、「姿勢のたかい人間、仏にそむく者」というのです。

私たちがこの世における一切の迷い苦しみを本当に知ることができた時がそのまま阿弥陀の本願の深さ広さを知る時といってよいのではないのでしょうか。

## 【易行風】

今、山城一組で開催されている教学講座で歎異抄を学んでいます。

皆様もよくご存じのように、歎異抄は親鸞聖人が生前に仰った言葉と、聖人が亡くなられた後に考え違いしている人々に聖人の教えを改めて伝える文章が書かれています。

その内容につきましてはまたの機会にしますが、言葉の受け取り方で（中にはわざと都合の良い解釈をしているものも有りますが…）こんなにも違った解釈が出来るんだ。と言う事に驚かされます。

真宗では自分勝手な考えを捨て、阿弥陀様の声を聞くと言う事を大切にしますが、何処までが自分勝手な考えでしょうか？

他人の迷惑を考えずに自分の利益を追求する事、これは自分勝手だと誰もが思っています。

しかし、他人の事を考え他人に利益をもたらす事、これは自分勝手にならないのでしょうか？

一見、自分勝手ではなさそうですが、よかれと思いついた事で相手が望んでいなかったら、単なる自己満足、自分勝手ではないでしょうか。

また、相手と話しをして相手の希望を聞いたが、結果的に相手が望んだ事にならなかったら。

私はこれらの事に共通するのが、他人の話を聞かない、聞いたつもりになると言う事だと思います。

この結果、多種多様な解釈が生まれ、本来の意味、思いを考え違いしてしまうのではないのでしょうか。

子供のころ、よく通知表に「人の話を聞かない」と書かれましたが、気にも留めず自分の主張ばかりしていました。大人になっても、聞いたつもりだったのでは。

今、聞法をするようになって「人と話しをする」「人の話を聞く」と言う事が非常に大事だと思ふようになりました。

座談の場では、人の話を聞き、相手の気持ち、考えを受け入れ、自分の考えを話すと言う事を心がけますが、常日頃はどうか、怪しいところです。

同じ事を何度も言う人、自分勝手な考えを押しつける人、相容れない考えを持った人等、挙げると切りがありませんが、こういう人たちの話を聞いていないのではないのでしょうか。

しかし、同じ事を何度も言う人の話が聞けていないから、相手は伝えようとして同じ事を話しているのでは。

自分勝手な考えと相手の考えを自分勝手に決めつけているのでは。

相容れないのは自分で広く物事を考えられていないからでは。

人の話を聞かない、挙げると切りがない理由を相手に求めて自分自身を正当化しているのではないのでしょうか。

そう考えると、常日頃から「聞く」事は非常に難しく中々できない事ですが、私は自然にできるようになりたいと思います。

そのためにも、聞法し、座談し、考える事は大切ではないでしょうか。

【報恩講のお知らせ】

十一月九日（日）

報恩講を勤修します

引き続き<sup>ききようしき</sup>帰敬式を執行します

二時 お勤め

三時 帰敬式

内にて法話

住職

四時 お齋

~~~~~  
【お磨きのお知らせ】

報恩講に先立ち、仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

十一月六日（木）午前九時より

~~~~~  
【同朋の会のお知らせ】

第一期の同朋の会が盛況のうちに修了いたしました。引き続き第二期の同朋の会を開催いたします。

第二期の初回は本山（東本願寺）の報恩講に皆様そろって参拝いたします。

日 時 十一月二十三日（日）

十二時三十分集合

集合場所 東本願寺御影堂門（改修中）

お申し込みの方はお寺または住職の携帯電話（090-44497-4714）まで、ご一報下さい。

申し込まれた方には追って詳細をお知らせいたします。

~~~~~  
【編集後記】

台風が続けて日本列島を駆け抜けて急に寒くなり、ましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

早いもので、もう十一月、あつと言う間にお年越しです。今年を振り返るには、まだ少し早いですが、災害の多い年だったような気がします。しかし、個人的には良い事も多く幸せな年だったと思います。

御門徒のKさんから良い写真を頂きましたので、掲載させて頂きたいと思えます。



また、お便り、ご意見、イラスト、写真等、お待ちしております。

~~~~~  
長塩浩史

~~~~~  
瑞蓮寺のホームページができました。

~~~~~  
<http://www.zuirenji.net/>